

“Smile5S”で楽しく進める！ やりたくなる5S

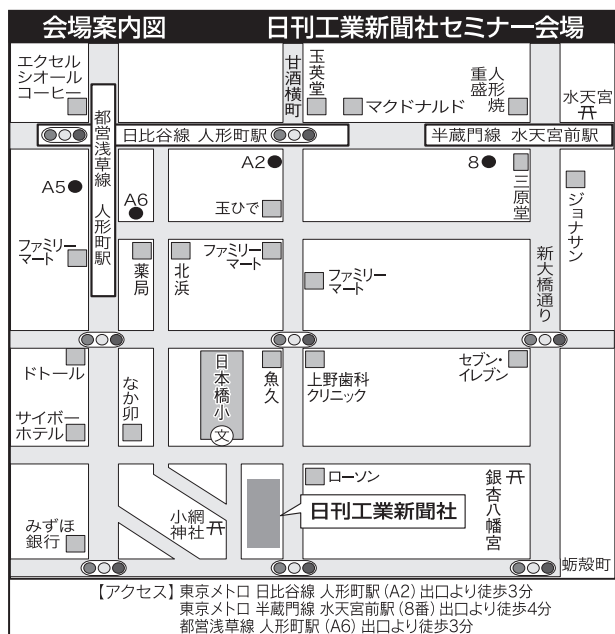
～スピーディーで確実に効果がでる／しっかり定着する／
目的にあわせた5Sを選択／柔軟性のある新しい5S～

日時 2018年 **4月26日(木)** 10:00～17:00
(9:30受付開始、休憩 12:30～13:30)

主催  **日刊工業新聞社**

会場 **日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム**
東京都中央区日本橋小網町 14-1 (住生日本橋小網町ビル)

受講料 **43,200円**(資料代、消費税込)
*1社複数人数で参加の場合、
2人目より10%割引いたします(38,880円)



日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム

東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)

【アクセス】

東京メトロ日比谷線『人形町駅』A2出口 徒歩3分、都営浅草線『人形町駅』A6出口 徒歩3分

東京メトロ半蔵門線『水天宮前駅』8番出口 徒歩4分

※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関で会場へお越しください。

※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

●申込方法

申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからお申し込みもできます。(http://corp.nikkan.co.jp/seminars/) 受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。

なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。

口座名義	りそな銀行	東京営業部	当座	656007
㈱日刊工業新聞社	三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
	みずほ銀行	九段支店	当座	21049
	三菱東京UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申込先 日刊工業新聞社 業務局 イベント事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail : j-seminar@media.nikkan.co.jp

受講申込書

4/26 5S

お申し込みは **FAX 03-5644-7215**

■受講料：43,200円 (資料代含む、消費税込) *同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円

※振込手数料は貴社にご負担ください。

会社名		業種	
氏名	フリガナ -----	TEL	
	部署・役職		
所在地	〒	FAX	
E-mail :		※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は チェックをしてください。 <input type="checkbox"/>	

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。
※一度お振込みいただいた受講料につきましては、ご返金できかねますのでご了承ください。

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

開催主旨

「5S」は現場の基本。その重要性は十分に理解しているつもりでも、その実態は「効果がでない」「活動が進まない」「定着しない」など、さまざまな問題を抱えています。一方で、時代の流れとともに生産現場で働く人たちの考え方が変わってきています。その流れに沿った5Sでなければ、効果も出ず、定着もせず、そんな活動はやりたくないと言われてしまいます。

「やりたくなる5S」のキーワードは「効果」と「効率(スピード)」、「定着」、そして「普遍性」です。本講座では2Sでは更地化、3Sでは原則整備、4Sでは異物ゼロ、5Sでは標準整備、ポカミス対策とビデオ標準へのアプローチを組み込み、解説します。

大きな効果ができれば、やる気ができます。スピーディーに大きな効果が出せるように上手くいった実績からアプローチをまとめています。効果ができれば、それを維持しないといけない必要性が理解できます。「5S」は現場の基本。現場で働くみんながそう思えるアプローチを提供します。

講師

株式会社 Rond・アプリウェアサービス **大谷 みさお** 氏

【略歴】 日立東京エレクトロニクスに入社し、半導体製造部門に配属。1998年、Rond・アプリウェアサービスに入社。組立・プロセス産業を中心にコンサルティング業務に当たり、23社で成果を上げる。最近では、AR(拡張現実感)とスマートグラス融合したポカミス対策ツールの開発を手がけるなどIoT(Internet of Things)を活用した先進的なカイゼン活動に取り組む。現場作業者と一体になって取り組む“現場実践型”のコンサルティングを信条とする。

プログラム

1. なぜ、「やりたくなる5S」か？

- 1.1 新しい5Sをつくってみました
- 1.2 5Sをやりたくなる本当の理由
- 1.3 もっとやりたくなる5Sへ
- 1.4 モラルとコストをマネージする
- 1.5 一からやるか、ピンポイントで取り入れるか

2. 2S:安全で働きやすい職場を創る

- 2.1 こんな問題ありませんか？
- 2.2 実践2S実施手順
- 2.3 更地化でスピード整理
- 2.4 置き場所、置き方の決定
- 2.5 2Sを仕上げる:チェックシートに頼らないしくみづくり

3. 3S:止まらない設備に育てる

- 3.1 原理・原則という考え方:3現・2原シートで原則の崩れを見つける
- 3.2 20の原則崩れ:設備トラブルの原因(要因)は原則の崩れにある
- 3.3 清掃の重要性
- 3.4 メカニズムの解明:直接的原因と管理的原因を明確にする
- 3.5 定期点検の重要性:意味のある点検を実施する

4. 4S:クリーンファクトリーの実現

- 4.1 異物の感性:異物に対する感性がにぶいと異物不良は慢性化する、経験則を学ぶ
異物のポテンシャルを下げるという考え方
- 4.2 異物の正体:異物不良対策の第一歩は正体を知る、物性、大きさ、形、色
- 4.3 異物不良発生メカニズム:発生源、伝達経路、異物付着という一連のプロセス
- 4.4 異物不良対策:徹底清掃で先ず異物をゼロにする。その後、発生源・伝達経路対策
- 4.5 清掃改善:異物不良ゼロ状態を維持するための清掃改善

5. 5S:人生産性の向上とポカミスゼロ

- 5.1 今、標準がまもられていないという実態
- 5.2 標準を改善し、人を育てる:作業の統一、標準の5つの不備を改善する
- 5.3 ポカミスの28の要因:初期ポカミスの80%は知らなかったが原因、手抜き・うっかりのメカニズム
- 5.4 教育・訓練の工夫:ビデオ標準を整備する、これからの時代にあった教育・訓練のしくみづくり
- 5.5 現場のモラルが変わった:これからの時代にあった人材マネジメント

6. 事例紹介

7. 質疑応答